

2018年1月

## AI（人工知能）による税理士・会計士の代替可能性の検討

経営学部 経営学科 石田ゼミ  
B4R11107 関口俊彦

### 【卒業論文概要】

昨今、AI（人工知能）という言葉をよく耳にする。2016年3月にGoogleが開発したAlphaGoが囲碁のトッププロに快勝し世間を驚かせた。また、2015年に野村総合研究所と英オックスフォード大学の共同研究は、日本の労働人口の約49%が10～20年後にAIで代替できる可能性が高いと発表した。そこでは、税理士・公認会計士の代替可能性は80%以上と指摘された。

本論文の目的は、税理士・公認会計士等の専門的職業がAIによって代替可能なのかを明らかにすることである。

AIの開発スピードは非常に早い。そのため、新聞雑誌等を含む先行文献の研究を行った。そして、AIとは何か、現在のAIの活用例、AIの得手不得手を明らかにした。AIが発達した一番の理由に深層学習が挙げられる。これは、従来の学習方法や範囲を人間がコンピューターにプログラム指示するのと異なり、AIが自ら必要な情報を学習するものだ。AIは、医療分野において膨大な研究論文・臨床データ等から適切な治療方法を選択する業務など過去の大量のデータを解析し適切な解を導き出すことを得意としている。その一方で、対人コミュニケーションなどヒトとヒトが関わりあいながら業務を遂行する作業は不得意であることを明らかにした。税理士や公認会計士の業務には帳簿作成や申告作業など定型的な単純作業がある。これらは、AIに代替される可能性が高い。しかし、経営計画策定やコンサル業務など経営者とマンツーマンの対話をとおして行う業務は、将来もAIに置き換わることはないだろう。我々は、いたずらにAIに職を奪われることを怖れるのではなく、人間にしか出来ない業務にヒトが集中するために、AIを積極的に活用することを考えるべきだ。